野沢温泉村幼保小中一貫教育・高校連携教育　　令和４年３月１４日（通算 180 号）

山毛欅（ぶな）の子　野沢温泉学園だより第11号

～子どもたちが、ブナ（村木）の若葉のごとく、力強くたくましく伸びてほしいとの願いを込め～

来年度は野沢温泉学園 10 年の節目の研究

野沢温泉学園は村の切実な願いを背景に平成 25 年４月１日に開園しました。来年度は開園から 10 年目にあたります。大切な節目の１年間にしたいと思います。改めて、開園からの願いや教育活動を振り返り、来年度の出発の見通しを持ちたいと思います。

１　野沢温泉学園の教育目標

村の未来を担う人材育成を目指して

～ふるさと野沢温泉村を心に刻み 心を世界に拓き 心豊かな人間性をはぐくむ教育～

２　柱と教育活動

教師と子どもがともに学び合い、育ち合う学園づくり

（１）豊かな国際感覚を育む英語学習

（２）スキーの楽しさを味わうスキー科の学習

（３）郷土愛を育むふるさと学習

（４）夢や視野を広げる交流体験学習

（５）ジョイント期を大切にした切れ目のない指導の充実

（６）地域高校との連携教育

スキー授業

（長野県教育委員会事務局発行『教育指導時報』令和３年６月号に掲載され、県下の学校に改めて紹介されました。）

３　幼年教育教育課程研究協議会発表校

令和４年度は幼年教育研究の発表校として指定を受け、学園公開研究会に位置付けます。これまで幼保小中学校一貫教育の推進を通して私たち学園で大切にしてきたことやその中での子どもたちの遊びや学びの姿を、幼年教育教育課程の視点から研究をさらに進めていきたいと思います。県教育委員会からの説明の中に「これまで大事にしてきたことをさらに大事に進めていただきたい」とありました。一歩一歩進めていきたいと思います。

幼年教育教育課程研究協議会　趣旨　　（長野県教育委員会事務局資料より）

幼年教育の改善と向上に資するため、幼稚園・保育園・認定こども園及び小学校の教育課程の望ましい編成や指導、連携のあり方について、研究発表・公開授業・研究協議会等を通して究明する。

令和４年度の重点

〇野沢温泉学園の基本方針をもとに、９年間積み上げてきた教育内容を、各校種連携を図り、実践を通して、より充実させていく。

〇野沢温泉学園の一貫教育の柱である「教師が、子どもと共に学び合う学園づくり」を目標に、こども園、小学校、中学校が一貫して小グループでの遊びを楽しむ保育と小グループで課題を追究し、学び合う授業づくりと今年度取り組んできた学習する子どもの視点に立った授業づくりに取り組むことを通して、よりよい人間関係を育てながら、知識、

技能の活用と課題解決する力を育て、一人ひとりの子どもの基礎・基本の定着や資質・能力の育成に取り組む。

〇教科の枠を超えた「問い」などのテーマで授業づくりやグループ学習研究に取り組む。

〇幼年教育教育課程研究協議会発表校(11/18)として「幼保小中の一貫のあり方とその実際」の実践を積み重ね、保育・授業を公開する。

（令和４年度野沢温泉学園 教育及び保育に関する全体計画より）

キーワードは今年度取り組んできた「学習する子どもの視点に立った授業づくり」をさらに進めることにあります。主体的・対話的で深い学びを繰り返し、教師が何を教えるかよりも子どもが何ができるようになるかをめざした授業改善を進めます。この予測困難な時代に大切な力として、例えば知識やツールを相互作用的に使うこと、思考判断表現を自律的に行うこと、友と良好な関係を作り協力して課題解決に向かうことなどを念頭に、子どもたちを伸ばしていきたいと思います。

子どもの「見て見て」に答える。

子どもたちは「見て見て」や「見てて」とよく言います。一生懸命に書いた漢字練習、できるようになった縄跳びの二重跳びやけん玉、自分で作った工作や絵、興味のあるものやことなど、そこには子どもたちの今この時の思いや表現があります。私たちが受けとめることで、子どもの満足感、成就感、自己肯定感につながります。また、思考・表現の機会が増えたり、もっとやってみようという意欲が出たりします。子どもの「見て見て」や「先生、聞いて」を大切に、子どもとの関係性も深めていきたいと思います。

メンタルトレーニング法、コーチング研修での一コマ

以前にメンタルトレーニング法の研修会に参加した時のことです。講師が「ピンクの像だけは想像しないでください」と参加者に問いかけました。ところがほとんどの人がピンクの像を想像してしまいました。私も絵本に出てくるようなカラフルな像をイメージしてしまいました。言葉がけの大切さを改めて感じた一コマでした。当時、私は「市村先生の発問で子どもの追究を止めてしまっている」と先輩先生によく言われていた時でしたので、自分の言葉がどうであったか、どうすればもっと子どもを伸ばす言葉になるか振り返りました。子どもたちの力を引き出す言葉がけを先生方と共に考え、実践していきたいと思います。

河井寛次郎の言葉

「一人の仕事でありながら一人の仕事でない仕事」

私が好きな言葉です。私たちの仕事は一人で行っているものではありません。いろいろなひと、もの、こととつながっています。受け継がれてきた９年間の野沢温泉学園の積み重ね、そこで大切に育ててきたもの、かかわってきた人たちの思いを意識しながら、みんなで「チーム野沢温泉学園」の 10 年目の取り組みを一歩一歩進めていきます。

「これはどのようにするのか」「こんなことができるのでは」「こんな話を聞いたがどうなのか」などお気づきのことがあったら、ご連絡いただけたら幸いです。共に子どもたちのために考えていきたいと思います。

（野沢温泉小　市村）